

第3章 環境像と基本目標

3-1 望ましい環境像

水とみどりにかこまれ 地球にやさしく 未来につなぐまち 中央区

本区には、隅田川、日本橋川、朝潮運河など、多くの河川や運河があります。これら都内随一の水辺を最大限に活用し、にぎわいや魅力あふれるまちを創出していくことが求められます。

また、都心機能が集中し、緑が少ない本区では、区民・事業者と区が連携して、緑の豊かさを実感できるよう緑化の促進を図っていくとともに、省資源・省エネルギーへの取組により、未来につなぐ持続可能なまちづくりを推進していく必要があります。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後、晴海地区の選手村跡地に新たなまちづくりが計画されていることから、これを本区全体が魅力的なまちへと生まれ変わるための好機と捉え、地球温暖化防止に向けた環境にやさしいまちづくりを一層推進していかななくてはなりません。

清らかな水と豊かな緑に恵まれ、本区に関わるすべての人々が、うるおいと安らぎを感じることのできる地球環境にやさしいまちを次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな責務であることから、「水とみどりにかこまれ 地球にやさしく 未来につなぐまち 中央区」を望ましい環境像として掲げました。



◆ 3-2 基本目標

本計画では、区の地域特性を踏まえた、望ましい環境像を実現するため、下記に示すように、5つの基本目標を定め、区民、事業者と連携のうえ、各目標の達成に向けた施策を着実に推進していきます。



基本目標1 低炭素社会 ～地球にやさしいまちづくり～

中央区基本構想の基本的な方向性の一つである「『中央区スタイル※』を確立し、世界に輝く東京を創造」に基づき、区の社会経済活動を成長させるとともに、交通インフラや先進的なスマートシティの実現など最先端都市モデルを構築していくことで、経済活動と環境負荷の低減が両立した持続可能な都市を実現させます。

そのためには、省資源・省エネルギーなどの低炭素社会に向けた取組や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村に予定される最先端技術の導入など、新たな試みに積極的に挑戦していきます。

また、二酸化炭素の吸収源である森林の保全活動支援を推進するとともに、区民および事業者への普及・啓発を図ります。

※「中央区スタイル」…「中央区ならではの」「オンリーワン」といった、個性豊かで魅力あふれる取組やまちの力を創出・集結していくこと



基本目標2 循環型社会 ～限りある資源を大切にするまちづくり～

今後も都心機能の集中や人口増加が想定される本区では、限りある資源を大切にするまちづくりを推進し、持続可能な循環型社会の実現を目指していかなければなりません。そのためには、家庭や事業所から排出されるごみの減量に向け、世帯構成や居住形態に応じた3Rに対する意識啓発と再生利用よりも優先される発生抑制・再使用の促進とともに、区・区民・事業者・団体が協力の下、廃棄物の適正な排出や地域特性に配慮した収集を行い、多様な手法による資源循環を推進していきます。



基本目標3 自然共生社会 ～水とみどりにかこまれた豊かなまちづくり～

本区には、隅田川、日本橋川、朝潮運河など、多くの河川や運河があり、都内随一の豊かな水辺環境を誇っています。

こうした地域の特性を活かし、河川や運河などの水辺と街路樹や公園などを整備することにより、うるおいと安らぎのある水とみどりのネットワークを形成し、水辺の魅力を高めていきます。

また、花や緑を増やしつつ、生き物が生息する自然環境を創出することにより、本区に関わるすべての人々が、自然を肌で感じることできる自然共生社会を実現していきます。



基本目標4 安全安心な社会 ～安心とやすらぎが実感できるまちづくり～

本区は都内有数の事業所の集積を誇ることから、通勤者をはじめとした多くの来街者が訪れています。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、その流れが一段と加速することが想定されます。

来街者や区民などを含むすべての人々が安全安心な社会を実感することができるよう、ヒートアイランド現象の緩和や異常気象に対する適応策、大気汚染対策等を推進します。

また、世界に誇る美しいまちを実現するため、地域の人々の環境美化意識の高揚を図り、美しいまちづくりに向けた取組を促進します。



基本目標5 学びと行動の輪(わ) ～みんなで環境活動に取り組むまちづくり～

中央区基本構想の基本的な方向性の一つである「多様な絆が融合した『プロアクティブ・コミュニティ※』の確立」に基づき、区の環境を守り育んでいくために、区民・事業者・環境活動団体・行政といった多様な主体が連携・協働し、環境活動に取り組んでいきます。

本区で暮らし、活動するすべての人々が、日頃から地球温暖化対策やごみの減量・再資源化といった課題を身近なものとして捉え、省エネルギー活動や3Rの取組などの自主的な環境配慮行動を実践していくよう、継続して環境情報の発信や環境イベントなどを実施し、環境学習や環境教育を推進するとともに、学びと行動の輪を拓けていきます。

※「プロアクティブ・コミュニティ」…自ら率先して地域における課題を解決し、快適な暮らしを実現していく社会



◆ 3-3 指標

本計画では、5つの基本目標に対し、各施策の達成状況を測るための指標を設定します。設定にあたっては、区民および事業者に環境への関心や理解を深めてもらうため、区の現況や施策の実施状況を個別指標としています。

また、区を取り巻く環境や社会状況が年々変化していくことを考慮するため、個別指標における現状値を分析していくことにより、区の環境が5つの基本目標にどの程度近づいているかを評価していきます。

なお、計画期間中においても、中央区環境行動計画推進委員会における進行管理体制のなかで、より適切な指標、さらには、必要に応じて、数値目標の設定などを検討していきます。

（中央区環境行動計画推進委員会および計画の進行管理については、第5章 参照）

個別指標一覧

表3-1 基本目標1 低炭素社会 ～地球にやさしいまちづくり～

個別指標		方向性	現状値 (平成 28 年度末)	備考
1	区内における温室効果ガス排出量 (オール東京 62 市区町村共同事業)	減少	2,473 千 t -CO ₂	平成 26 年度確定値
2	区内の家庭（世帯あたり）におけるエネルギー消費量 (オール東京 62 市区町村共同事業)	減少	2,719 T J	平成 26 年度確定値
3	区内の事業所（床面積あたり）におけるエネルギー消費量 (オール東京 62 市区町村共同事業)	減少	13,814 T J	平成 26 年度確定値
4	区施設における温室効果ガス排出量 (中央区役所温室効果ガス排出抑制実行計画)	減少	59.8Kg-CO ₂ /m ²	※
5	中央エコアクト（家庭用）	推進	参加 648 世帯	
6	中央エコアクト（事業所用）	推進	認証 76 社	
7	公園灯の L E D 化	推進	344 基	
8	街路灯の L E D 化	推進	1,773 基	
9	区内の再生可能エネルギー導入促進事業	推進	9,028kw	※経産省・資源エネルギー庁データ
10	コミュニティサイクル利用回数	増加	266,836 回	※
11	「中央区の森」事業	推進	42.3ha	

※平成 28 年度(単年度)実績

表3-2 基本目標2 循環型社会 ～限りある資源を大切にするまちづくり～

個別指標		方向性	現状値 (平成 28 年度末)	備考
1	区内ごみ量 (家庭ごみと事業系ごみの1年間当たりの総量)	減少	107,773 t	平成 27 年度確定値
2	区収集ごみ一人当たりの排出量	減少	237kg	※
3	事業用大規模建築物従業員一人当たりの可燃ごみ 排出量	減少	194.9kg	平成 27 年度確定値
4	行政回収および集団回収による資源化率	増加	25.3%	※
5	住民による資源の集団回収	推進	4,683 t	※
6	資源の集団回収登録団体数	増加	289 件	※
7	資源の拠点回収	増加	79,966kg	※

※平成 28 年度(単年度)実績

表3-3 基本目標3 自然共生社会 ～水とみどりにかこまれた豊かなまちづくり～

個別指標		方向性	現状値 (平成 28 年度末)	備考
1	公園・児童遊園等の整備	推進	公園 56 園	
			児童遊園 33 園	
2	街路樹の整備	推進	6,816 本	
3	水辺環境等の整備	推進	朝潮運河等護岸 環境整備 521m	
4	区施設の緑化推進	推進	屋上緑化 33 施設	
			壁面緑化 24 施設	
5	緑化助成	推進	12 件 305 m ²	※
6	緑化ボランティア	推進	1,200 人	※
7	河川水質調査	継続 基準達成	5 河川・1 運河実施	
8	水生生物の生息状況(区調査)(都調査)	調査結果 分析	H25 区調査 ウグイ、ボラ、マハゼなど H25 都調査 ウグイ、スズキ、ボラ、マ ハゼなど	

※平成 28 年度(単年度)実績

表3-4 基本目標4 安全安心な社会 ～安心とやすらぎが実感できるまちづくり～

個別指標		方向性	現状値 (平成 28 年度末)	備考
1	遮熱性舗装整備率	増加	41.6%	
2	公園・児童遊園等の整備（再掲）	推進	公園 56 園	
			児童遊園 33 園	
3	街路樹の整備（再掲）	推進	6,816 本	
4	水辺環境等の整備（再掲）	推進	朝潮運河等護岸 環境整備 521m	
5	区施設の緑化推進（再掲）	推進	屋上緑化 33 施設	
			壁面緑化 24 施設	
6	自動車排ガス・騒音・振動調査	継続 基準達成	排ガス 7 地点 騒音・振動 10 地点	
7	低騒音舗装整備率	増加	52.8%	
8	大気汚染調査	継続 基準達成	6 大気質測定 (区役所)	
9	河川水質調査（再掲）	継続 基準達成	5 河川・1 運河実施	
10	水生生物の生息状況（区調査）（都調査） （再掲）	調査結果 分析	H25 区調査 ウグイ、ボラ、マハゼなど H25 都調査 ウグイ、スズキ、ボラ、マ ハゼなど	

表3-5 基本目標5 学びと行動の輪(わ) ～みんなで環境活動に取り組むまちづくり～

個別指標		方向性	現状値 (平成 28 年度末)	備考
1	中央エコアクト（家庭用）（再掲）	推進	参加 648 世帯	
2	中央エコアクト（事業所用）（再掲）	推進	認証 76 社	
3	「中央区の森」事業（再掲）	推進	42.3ha	
4	環境情報センター事業	推進	総来館者数 28,414 人	※
			講演会・講座等参加者数 8,164 人	※
5	まちかどクリーンデー	推進	参加登録数 249 件	
6	緑化ボランティア（再掲）	推進	1,200 人	※

※平成 28 年度(単年度)実績